

## 介護のある生活の中で楽しく生きる

今井田敬子

介護の現場は一つとして同じケースがないだろう。だからこそ、それぞれの人が自分の体験を語り合いその中から何かを学び取るのだろうか。

主人が倒れて30年、何と長い歳月が流れている。自営業の継続と、中1・小2の息子の教育に無我夢中で働き続けた前半・再発で、体の自由を失い、失語症となつてからの後半、夫は、今、満80歳を過ぎ私と二人の息子と共に暮らしている。

在宅介護をこんなに長く続けられるのは、訪問診療の先生・看護師さん、入浴介助のスタッフ、ケアマネージャーさん、ヘルパーさん達との温かい触れ合いがありお力をお借りし常に体調管理が行き届いていることにある。一方私自身、息子達の理解のもと、ゴルフにも俳句にも楽しく過ごせる時間を貰っているからだろう。介護する者の心が幸せでなければ、優しい気持ちになれないことを実感している。

二人の息子も、どんなに遅く帰っても、お父さんに声をかけ、元気で過ごせたことを喜び合う。主人も大切にされていることを味わうひと時であろう。

明るい会話や、笑顔が生きる力をお互いに感じ得る何よりも介護の生活に大切なことと私は思う。